

❁ 医療職のための統計シリーズ

医療職のための学び直し—研究デザインから論文報告までの生物統計学の道標—
第23回 質問紙の作り方ヨネクラ ユウキ
米倉 佑貴*

I はじめに

質問紙法、質問紙調査はいわゆるアンケート（調査）である。質問紙は人を対象とする研究で対象者に関する情報を収集するのに用いることができる簡便な方法である。物理学や化学、生物学のような自然科学の実験のように特殊な機器や技術が必要とされず、誰でも簡単に実施できるというイメージがあるが、専門的な知識に基づいて設計した質問紙調査とそうでないものではデータの質に大きな差が出る。今回は質問紙の作成の仕方について扱う。近年では回答用のウェブページを用意し、パソコンやスマートフォンなどの機器でアクセスし回答してもらうインターネット調査も広く行われている。回答に使用する媒体は紙ではなく画面上であるが、紙ベースの調査と共通する点は多いため、本稿で紹介する内容はインターネット調査を実施する際にも適用できる。

II 質問紙の構成、作成の手順

通常、質問紙は、表紙と質問部分で構成される。表紙には、調査のタイトル、背景や目的、依頼文、回答方法の指示、調査に関する問い合わせ先などが含まれる。保健医療系の研究では倫理的配慮などの説明事項が多くなるため、背景や目的、方法などと合わせて別の用紙に分けることもある。インターネット調査の場合も、調査に関する説明のページにアクセスしてもらい、調査に協力する場合に質問のページに進むという構成が一般的である。

質問は分量が多いほど回答者の負担が大きく、回答率は下がるため、研究目的に照らし合わせて必要最小限の項目数に留めた方がよい。

表1 質問紙作成の手順

- | | |
|----|---------------------|
| 1) | リサーチクエスションや仮説を明確にする |
| 2) | 必要な質問項目を選定・作成する |
| 3) | 質問項目の順番を決める |
| 4) | 質問紙（インターネット調査）を起こす |
| 5) | プレテストを行い必要に応じて修正する |
| 6) | 完成 |

質問紙を作成する際の手順は表1に示したとおりである。以下、それぞれのステップについて紹介していく。

(1) リサーチクエスションや仮説を明確にする

質問紙はリサーチクエスションに対する答えを明らかにすることや、仮説を検証するためのデータを収集する手段であるため、リサーチクエスションや仮説を明確にしなければ、作成することができない。リサーチクエスションや仮説の作り方については、本連載の第2回¹⁾で扱っているので、そちらも参考してほしい。

(2) 必要な質問項目を選定・作成する

次に、リサーチクエスションや仮説を検証するために必要な項目を既存の質問項目から選定するか新しく作成する必要がある。最初から質問項目を選んだり作ったりするのは難しいので、まずは概念やキーワードを挙げていき、次にその概念やキーワードとした挙げたものを測定するために操作的な定義をつける。定義づけができればその定義に基づいて測定するための質問項目を探し、適当なものがなければ新たに作成する。

質問項目はその役割に応じて、主テーマ質問、副次質問、フェース項目の3つに分けることができる。主テーマ質問は研究の主目的に関する質問であり、リサーチクエスションのPICO/PECOの要素のうちE（注目する要因）やO（アウトカム）に関するものが該当する。副次質問

* 聖路加国際大学大学院看護学研究科准教授